

地域のあゆみ



あぜち 畦地 1号古墳から出土した銀製の^{かさ}耳飾り

座光寺には1万年以上前から人が住んでいます。この長い間に残された文化財は数多くあります。縄文時代から弥生時代の土器や石器は、地域中至るところから発見されます。とくに、弥生時代では恒川式・座光寺原式・中島式の名称があるように、代表的な遺跡が多くあります。古墳時代以後は、77基の古墳のほかに住居跡も非常に多く発見されています。とくに恒川遺跡群では奈良時代にかけて郡下一の大集落があって、「古代伊那郡衙^{ぐんが}」が置かれていました。そこで、写真のような銀製の耳飾りの他に、代表的な金属器や土器・石器を数多く紹介しています。

江戸時以降のことは、天竜川の洪水と堤防・道路や橋・道路沿いの古い石造物・村の仕組みや伝統的な芸能・言い伝えられる文化遺産に触れています。学校校舎の移り変わりなど、座光寺らしさの分かるものを数多く取り上げてみました。優れた文化財の多い座光寺を改めて見直してみてください。